

未来の担い手を育てるために

高取町農業委員会

1. 高取町の農業の概要

高取町の農業は、水稻を中心に夏秋ナス等の露地野菜と一部施設によるイチゴ栽培が行われていますが、主要農産物は依然水稻が中心です。農業形態としては昔から兼業農家が大半を占めており、昨今農業の担い手不足や高齢化を起因とする耕作放棄地の増加が大きな課題となっています。一方、認定農業者や中核農家が軟弱野菜を中心に生産性及び収益性の向上に努められているとともに、新規就農者や農業法人の新規参入が今後の地域農業の活性化に向けて期待されています。

2. 農業委員会の取り組み

①具体的な取り組み内容

平成17年から農業委員会が中心となり、耕作放棄地の解消と食農教育という観点から、町内園児を対象に秋ジャガイモ掘りの体験を実施したのをキッカケに、子どもたちへの農業体験事業が始まりました。当初は、生きることの最も基本的な要素である「食」と、それを支える「農(農業)」について学び体験すること、あわせて耕作放棄地を解消することを目標にしていました。

平成18年には、農業で町おこしをするプロジェ

クトチームが発足し、平成20年に「教育ファーム推進協議会」の設立により組織化され今日に至っています。協議会は、農業委員会を中心として町内各種団体が力をあわせ連携をしながら、次世代を担う子どもたちへ教育の一環として農業体験の学習事業を続けてきました。



米づくり体験(田植え)



米づくり体験(稲刈り)



米づくり体験(しめ縄づくり)



米づくり体験(お餅つき)



黒大豆体験(収穫、はぜ掛け)



黒大豆体験(みそづくり)



トウモロコシ体験(植付、収穫)



トウモロコシ体験(ポップコーンづくり)

今年で9年目を迎えるこの事業は、農業という仕事の理解と未来の担い手を育成するだけでなく、子どもたちが間近で生命あるものを育てることで「命」の大切さを知り、その命を繋ぐために必要な「食」の大切さに気づくことも重要であると考えます。

当初は収穫体験だけでしたが、最近は苗づくりから植え付け、収穫、加工利用などの一連の農作業に加えて、町の伝統や風習など幅広い取り組みを進めています。

子どもたちの心の成長を育むこの事業は、今後も長く続けていきたい農業委員会の取り組みのひとつとなっています。

②取り組みに当たっての課題

これまでの取り組みのお世話をいただいている各種団体自体が高齢化しており、各種団体並びに農業体験組織として若返りが必要な時期をむかえている。次世代を育成しながら経緯を引き継ぐことが当面の課題となっている。



ダイコン体験(植付、収穫)



ダイコン体験(ごんだ汁づくり)



カボチャ体験(植付、収穫、ハロウィン工作)



スイカ体験(植付、収穫、清掃作業)